

Title	経営者のストレスとソーシャルサポートに関する一考察
Sub Title	
Author	石田, 智絵(Ishida, Tomoe) 渡辺, 直登
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2004
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2004年度経営学 第1928号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002004-1928

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	渡辺直登研究会	学籍番号	80328097	氏名	石田 智絵
(論文題名)					
経営者のストレスとソーシャルサポートに関する一考察					
(内容の要旨)					
<p>日本国内におけるメンタルヘルス対策は、主に従業員を対象として行われており、経営者に限定されたものは皆無に等しい。同時に、産業・組織心理学においても、経営者に焦点を当てたストレスに関する先行研究も皆無に等しい。Kets de Vries & Miller (1984) は、企業のシェアの落ち込み、利益率の低下、モラルの低下、品質の低下といった病理の所在を、従業員個人ではなく、経営者あるいは経営者を取り巻く経営戦略を企てる経営トップ層にあると提唱しており、筆者も同氏の見解に賛同する立場で、題名のとおり修士論文のテーマとして選定した次第である。</p> <p>本研究の目的は、経営者における経営上のストレスとソーシャルサポートについて、心理的負担度や企業業績との関連性とも絡めて、探索的手法を用いて、経営者のストレスとソーシャルサポートの実態を明らかにすることにある。先行研究の乏しさもあり、明瞭な仮説は構成しなかったが、概して、ストレス要因については経営上のイベント全てが経営者にとってストレス要因となりえること、またソーシャルサポートに関しては自社の経営幹部に限定されており、そのことが組織の硬直化、ひいては組織運営上の弊害になるとの予測のもとに、調査・分析行っている。</p> <p>本研究は、先行・理論研究、定量的研究の2つの機軸から構成される。まず、先行・理論研究においては、これまでの研究の成果を職業性ストレスとソーシャルサポートを中心に概観し、経営者を対象としたストレス調査を行うための質問紙作成の基盤とした。その際に、経営者を対象としたストレスやソーシャルサポートに関する先行研究が存在しないため、関連すると思われる種々の文献を参照し、経営者のストレスの実態を把握するために多面的なアプローチを行っている。</p> <p>定量的研究では筆者が独自に作成した質問紙を使用し、66名の現役経営者に対し、郵送形式で調査を実施した。集計したデータは、記述統計、因子分析(主因子法)、多次元尺度法、重回帰分析等を用いて分析し、結果、次のような結論に辿り着いた。</p> <p>経営者のストレス要因に関しては、①経営者にとって心理的負担度の高いストレス要因は企業のストレス反応であり、企業の病理が顕在化したものである、②経営者がほとんどのストレス要因に低い心理的負担度を示すのは、ストレス要因が慢性的なイベントとなっているからである、③慢性的なストレス要因は心理的負担度が低いためストレス要因としての認識は困難だが、ストレス反応の原因となりえる、④経営者は無意識的にストレス要因を軽視しており、その行動は組織への関心度の低さへとつながる、の4点に集約される。</p> <p>経営者のソーシャルサポート源に関しては、①経営者のソーシャルサポート源としてストレス反応の緩衝要因が理論的に確認されたのは「自社の経営幹部」である、②経営者を取り巻く人物は、ソーシャルサポートとして機能するというより、主従関係によって役割が限定されている、③ソーシャルサポートにおける情緒的・評価的サポート機能はコーピングの可能性があり、の3点に集約される。</p> <p>本研究は、明確な仮説こそ構成しなかったものの、経営者のストレス研究を通じて経営者の組織での行動形式やストレス要因に対する認識、ソーシャルサポートとの関わり方の実態を明確にした点で、今後の職業性ストレス研究の新しい糸口を提示できたという点において意義があると考えられる。</p>					